

地域連携・国際交流

沖縄県立看護大学では「大学がやりたいこと」ではなく、「地域の人々が大学にやってもらいたいことは何か?」をもとに、地域貢献を推進しています。

主な事業として、「実習先との協働事業」、「卒業生・修了生、同窓会との協働事業」、「地域との協働事業」、「看護職者等ネットワーク推進事業」があります。そのうち、「地域との協働事業」における「与儀地域とのまちづくり協働事業」について、具体的な活動を紹介します。

「与儀地域とのまちづくり協働事業」は、与儀小学校区まちづくり協議会を中心に与儀地域と大学が協働し、まちづくりを行うことを目的としています。

“大学見学ツアー”へ招待



開学記念日に与儀地域住民や企業、関係機関等を本学に招待し、大学の機能や役割を知る機会をつくり、ネットワークの基礎づくりと、子どもたちのキャリア教育の可能性を探りました。

看大祭で地域理解



看大祭で「与儀地域の今昔」と「与儀小学校区まちづくり協議会活動」のポスターで、地域と協議会活動の理解の機会をつくりました。また、学生と住民の手作りによる氷ざんざん・大福もちを出店しました。

地域一斉清掃への参加



地域住民と一緒に身近な地域の清掃活動に定期的に参加し、ゆんたくしながらゴミ拾いを楽しみ、交流を深めています。

敬老会への参加



地域の敬老会にて、血圧測定を行い、楽しみ前の体調確認を行いました。学内で学んだ看護技術を実践しました。

ハワイ研修

沖縄県立看護大学では、開学3年目の平成13年から毎年夏休みを利用して、ハワイ大学マノア校及びカウアイ・コミュニティー・カレッジで3週間の研修を行っています。研修目的は、英会話によるコミュニケーション能力を高めること、ハワイの保健福祉事情を理解すること、異文化の人々と暮らしについて理解を深めることです。2013年度で研修は13回目を迎え、参加学生の満足度の高いプログラムになっています。



ハワイ研修に参加して 金城 真実

3週間のハワイ研修を通して、異文化交流・アメリカの医療制度・英語力の向上、他にも沖縄を見つめる機会になったり、人の温かさを感じる交流等多くの事を経験し、学びにする事が出来ました。以下に、日本と比較して印象に残ったことについて述べます。

まず病院の中に教会がある事です。教会の中には聖書や仏教の本、十字架が準備されている部屋があり、宗教をあまり重要視していない日本との違いを感じました。次に、アメリカの医療制度も印象的でした。日本には国民皆保険がある為、経済的に厳しい生活をしている人でも医療を受ける事ができますが、アメリカでは保険に入っていない人も多く、経済的理由で医療を受けられない人が居るという事に驚きました。高額な医療費になる為、短期間で高度な医療を提供する必要があり、その分看護師の技術もハイレベルなものでした。看護学生の授業でも、シミュレーターを用いて実践に近いアセスメント練習をしていました。

ハワイの方々が看護師という職業に誇りを持ち、良い医療を提供しようとする姿を見て、私もこんな看護師になりたいと思いました。日本の看護も素晴らしいと思いますが、視点の違う看護をみる事で、視野が広がり、今後の自分の看護師像として良い刺激になりました。

JICA 研修生受け入れ



平成25年度は6月と10月にJICA研修が本学で行われ、1回目はウルグアイ、エ

クアドル、パラグアイ、ブラジル、ペルー、ボリビアの中南米6カ国から11名の研修生を受け入れ、2回目はグアテマラ、ドミニカ共和国、ニカラグア、パナマ、ホンジュラス、ボリビアの中南米6カ国から11名の研修生を受け入れました。研修生は基礎実習室、スキルラボ室、図書館などの学内視察、母性保健看護・小児保健看護・島嶼における母子保健の講義・演習や学部生との交流を通して、沖縄における母子保健活動の現状や課題などを学んで帰られました。研修生それぞれが、沖縄県立看護大学での学びを本国へ持ち帰り、母子保健の問題点を分析し、課題解決へ向けて活用できるようにすることを意図しての研修プログラムです。本学では今後も、国際交流及び国際協力へ貢献できるよう充実した研修内容を提供し人材育成に寄与します。